



南部町立南部中学校 学校だより 第8号

千一ム南部中

令和3年 7月20日(火)

校長 望月和彦

明日で1学期終了 健康に留意し充実した夏休みを

明日7月21日で1学期が終了します。2・3年生は4月6日の始業式から、1年生は4月7日の入学式から始まり、明日の終業式までで、1年生が72日、2・3年生が73日の授業日になります。昨年度から続く新型コロナウイルスのため、1学期も生徒たちの健康と安全を最優先で考え、中止や延期したり、内容を縮小したりした教育活動もありました。そうした中でも、学校全体でみると、生徒たちは様々な学校生活の中で、心も体も成長し、個々や集団の力を伸ばすことができたと感じます。授業に真面目に取り組む姿勢、仲間とともに目標めざして部活動に励む姿、気持ちの良いあいさつや礼儀態度、自分で考え周囲にも気を配る無言清掃や脚下照顧、日常生活の中で助け合う心や思いやりの心など。多くの場面で生徒たちの成長を感じることができた学期でした。もちろん、個々の生徒やそれぞれの集団には、次のレベルをめざすための課題もあります。学期末には学級ごと、また学年ごと、1学期の振り返りが行われ、個人や集団の成長した点(成果)と改善したい点(課題)を確認しています。保護者の皆様には、7月15日から行われた三者面談の中で、学級担任からそのようなお話もあったのではないかと思います。また、明日の終業式後には生徒たちに「通信表」を渡します。6月の通知でお伝えしたように、今年度から通信表の形式が変わりました。その中にも、生徒たちががんばっている様子やこれからの課題が書かれています。三者面談の内容や通信表をもとに、夏休みや2学期に向けて、ご家庭でもがんばった点については褒めていただき、励ましやアドバイスをしていただければ幸いです。

7月22日から8月26日まで、36日間の夏休みになります。(コロナによる臨時休業のため昨年度は23日間でした)夏休み中には、部活動や県総体、吹奏楽コンクール、学年ごとの学習会や輝城祭に向けた取り組み、中高連携のサマーセミナーや防災セミナー、2年生の職場体験学習、PTA親子奉仕作業など、たくさんの行事があり、夏休みの宿題も出されています。生徒たちには自分の計画に従って、やるべきことはしっかりやり、その他の時間は自分のやりたいことや心や身体のリフレッシュに有効に使ってもらいたいと思います。東京オリンピックやパラリンピックの観戦を楽しみにしている人もいますが、病気やけが、交通事故や水難事故、犯罪や事件には、ご家族を含め十分注意をお願いします。(「夏休みを迎えるにあたって」参照)特に、新型コロナウイルス感染症については、ご家庭でも可能な限りの対策をお願いいたします。(「保健だより」No.11参照)



↑ 吹奏楽部コンクールに向けて全集中



↑ 輝城祭に向けて美術文芸部の話し合い

8月27日の始業式で、やる気に充ちた笑顔の全校生徒と会えることを楽しみにしています。

より良い授業をめざして 理科の授業研究会

本校では「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～というテーマで、全教職員による研究を進めています。生徒たちが主役となって学習の見通しをもち、教師や仲間との対話や意見交換、教材との対話を通して、様々な事象を多面的、多角的にとらえるなかで自分の考えを深め、学習内容を振り返りながら次につなげていけるような授業づくりをめざしています。7月12日(月)の6校時には、佐野希教諭による1Aの理科の授業研究を行いました。単元



「物質のすがた」の3時間目で「身のまわりの物質で酸素と二酸化炭素を発生させ、捕集し、確認する

方法を考えよう」という内容です。生徒たちは個人で、教科書や資料集、クロームブックを使って、身のまわりにあるもので酸素や二酸化炭素を発生させられないかを考えます。教科書や資料集の中で参考となる部分を探す生徒、クロームブックを使ってネット上の様々なサイトを検索して方法を探す生徒、となりの生徒からヒントをもらう生徒など、それぞれが課題に向き合っていました。その後、小グループの中でそれぞれの考えを意見交換しました。3～4人のグループが5つありましたが、それぞれ進行役がいて順番に考えを発表し、交流していました。グループの話合いの様子を見てみると、発表を聞いてから「それ、どうして?」「その確認の方法はおかしくない?」「前の時間にこうだったじゃん」「あっそうか」など、発表者の考えの根拠を聞いたり、間違った部分を指摘してあげたり、他者の発表に納得し取り入れたり、自分の考えを深めたり、よりレベルの高い考えにしたりしていく過程が見られました。その後、グループで出された考えが全体の場で発表され、それぞれの考えが共有されていました。生徒たちの多くの発表には、どうしてそう考えたのかという根拠や理由付けがされていたことがすばらしかったです。最後に、佐野教諭が「次の時間には、今日考えた方法がうまくいくか実際に実験してみましょう」と予告し、授業が終わりました。



授業後の研究会では、本校職員に加えて、参観に来てくださった富沢小の久保田先生も加えて、生徒たちの様子、授業の良かった点や改善が必要な点などについて研究討議を行いました。総合教育センターの外川陽清指導主事、義務教育課の藤原聡指導主事からは「小グループでの意見交換が自然にでき、意見を発表する際に根拠が述べられているところが良かった。日頃からそうした授業づくりに取り組んでいることがよくわかった。また、クロームブックを積極的に活用している授業が見られて良かった。」など高い評価をいただき、指導案づくりやICTの活用に関わる留意点について、指導助言をいただきました。

輝城祭に向けての取り組みがはじまる



7月7日(水)代表委員会が開かれ、輝城祭のテーマ、スローガン、組織と大まかな内容が決定しました。第11回輝城祭テーマは「**つながり**」です。今年度の生徒会目標「仲間を生かし 仲間に生かされる学校」をつくりあげるためには、人と人の**つながり**を考えることが必要であり、あたたかい言葉や行動で「**頑張る**」を支える(輝城祭・生徒会スローガン)ための**つながり**をつくっていきたいという思いが込められています。昨年度はなかった部門(展示装飾、全校制作、文化、広報、体育、吹奏楽、美術文芸の7部門)ごとの縦割りの取り組みも復活することになりました。代表

委員会の決定を受けて、クラスで各部門のメンバーが決まり、14日には第1回の部門別会議も行われ、いよいよ輝城祭の取り組みが始まりました。本番は9月11日の1日開催ですが、昨年度とは異なる骨組みとなります。第11回がどんな輝城祭になるのか、今から楽しみです。

「租税教室」

7月14日4校時、3年生社会科の授業の1コマとして、東京地方税理士会甲府支部の前田晋吾さんを講師に「租税教室」を行いました。

①税金は何のために使われているのか ②税金はどのように集められているのか ③税金の仕組みは変えられる について、生徒の身近な



ところから例を挙げ、わかりやすく説明してくれました。「税金はとられているのではない」ということを熱く教えていただきました。

報道集会

7月8日朝の報道集会は1年主任の望月美彦教諭のお話でした。美彦教諭は自分自身がどうして中学校教諭になったのかを語ってくれました。プロ野球選手や建築家、役者にもなりたかったそうですが、それらをあきらめ、最終的に部活動の指導がしたいという思いから中学校教諭になったそうです。「目標を達成できないことはダメではなく、その時々で様々な状況を考えて目標を定め、がんばることが大切です」と伝えていました。

